

〔特産熱帯果樹等の安定生産技術の開発〕

アテモヤの生産技術開発

～「ピンクスマンモス」の剪定による収穫期の拡大～

馬場 隆

(小笠原農セ)

【要 約】小笠原村のアテモヤは、慣行の剪定との併用で11月から翌4月までの収穫期調整が可能である。また、収穫果率は8月剪定で最も高く、11月以降の収穫は裂果の発生はみられない。

【目 的】

小笠原村を訪れる観光客に向け、年間を通じた熱帯果樹の供給体制の確立が求められている。高い糖度と独特の食感が特徴の熱帯果樹「アテモヤ」は、3～4月剪定、5～6月開花、9～11月収穫が小笠原の慣行栽培とされている。これまで、春に生じた新梢を夏季に再度剪定することで、開花期を遅らせることについて報告した。本試験では、剪定時期別の着果特性を把握し、小笠原におけるアテモヤの収穫期の拡大について検討する。

【方 法】

2006年2月に亜熱帯農業センターの鉄骨ハウス内に定植した「ピンクスマンモス」12樹を供試した。供試樹種は全て2009年3月27日に短梢剪定を行った。その後に生じた新梢を2009年6月15日に8樹、8月5日に1樹についてさらに短梢剪定した。残り3樹は再度の剪定を行わない慣行剪定とした。2010年は3月29日に短梢剪定を行い、8月5日に8樹、9月5日に2樹、9月20日に2樹についてさらに短梢剪定した。処理後、開花日および収穫日を調査した。開花盛期は1樹当たり3花以上の開花がみられる期間とし、人工受粉は開花後直ちに行った。収穫は果皮色が「日本園芸植物標準色票」で凸部3513(穏黄緑)、凹部3511(浅黄緑)の時とした。

【成果の概要】

1. 2度目の剪定を行った後、約1ヶ月後に開花が始まり、開花後4～5ヶ月後に収穫が始まることが確認された。8月5日剪定では開花盛期が2009年は9月9日～21日、2010年は9月14日～10月6日と差はみられなかったが、平均収穫日は2009年が2月8日、2010年が3月3日と約1ヶ月の違いがみられた。収穫果率は8月剪定で高く、9月以降の剪定で70%未満となった(表1, 表2)。
2. 裂果率は収穫期により異なり、11月以降の収穫ではみられなかった(図1)。
3. 普及用資料として「剪定による開花盛期、収穫時期の移動」を作成した(図2)。
4. まとめ: 小笠原におけるアテモヤは、2度の剪定により収穫期を遅らせることができる。慣行剪定と合わせ、10月～4月まで収穫を拡大することが可能である。また11月以降に収穫をずらすことで、裂果の発生を抑えることができる。
5. 留意点: 2009年と2010年の8月の剪定に見られた収穫の差は両年の気温差に原因がある可能性があり(データ省略)、年により収穫期等は変動する。9月剪定では新梢伸長期に気温が低くなり、新梢の伸びが悪く、樹勢の低下を招く恐れもあるため、樹勢を保つ栽培管理が必要となる。

表1 2009年の「ピンクスマンモス」の剪定時期と開花盛期および収穫期間

剪定時期	供試樹数	開花盛期	調査花数	平均収穫日 (収穫期間)	収穫果率 (%)
3月27日	3	6/5~6/29	110	10/28 (10/8~11/15)	88.2
3月27日 6月15日	8	7/16~8/25	457	12/7 (11/17~12/18)	94.5
3月27日 8月5日	1	9/9~9/21	21	2/8 (1/20~2/24)	100.0

※収穫果率は収穫果数/人工受粉花数×100

表2 2010年の「ピンクスマンモス」の剪定時期と開花盛期および収穫期間

剪定時期	供試樹数	開花盛期	調査花数	平均収穫日 (収穫期間)	収穫果率 (%)
3月29日 8月5日	8	9/14~10/6	164	3/3 (2/4~3/25)	97.0
3月29日 9月5日	2	10/3~10/22	36	3/29 (2/23~4/21)	63.9
3月29日 9月20日	2	10/19~10/29	31	4/8 (3/23~4/27)	67.7

※収穫果率は収穫果数/人工受粉花数×100

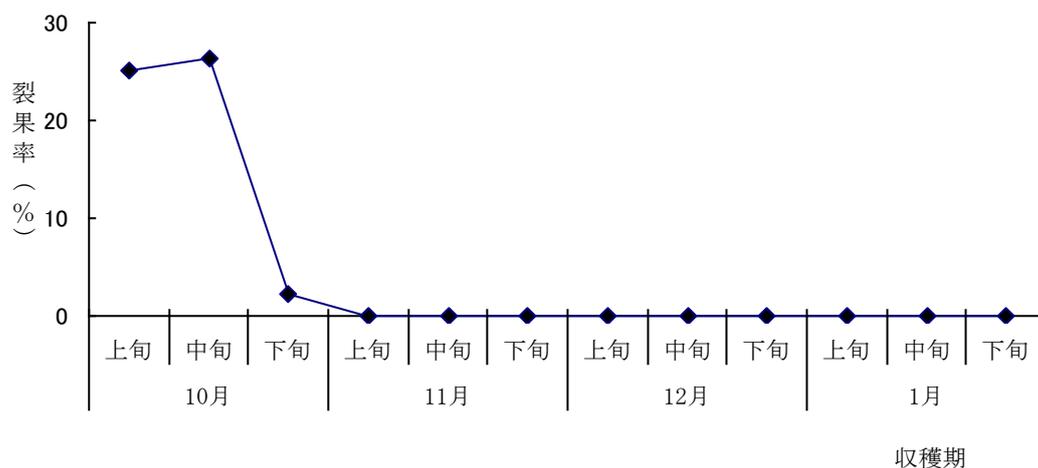


図1 収穫期別の裂果率

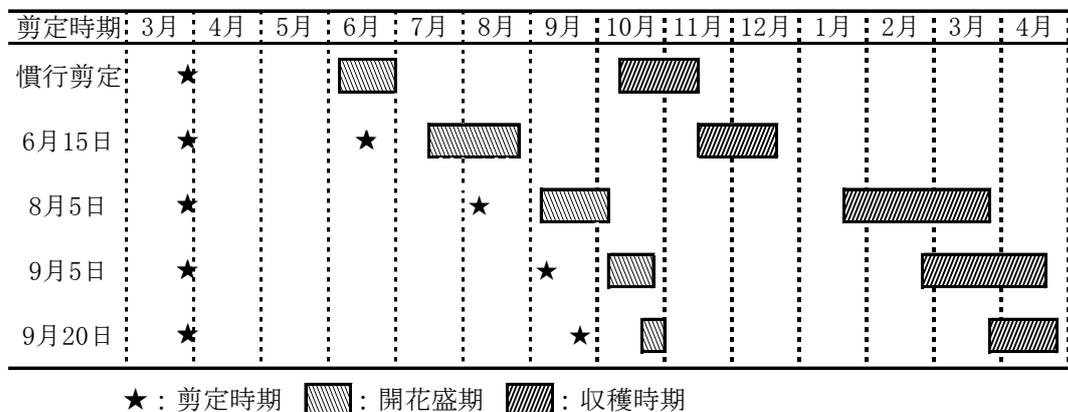


図2 剪定時期による開花盛期、収穫時期の移動